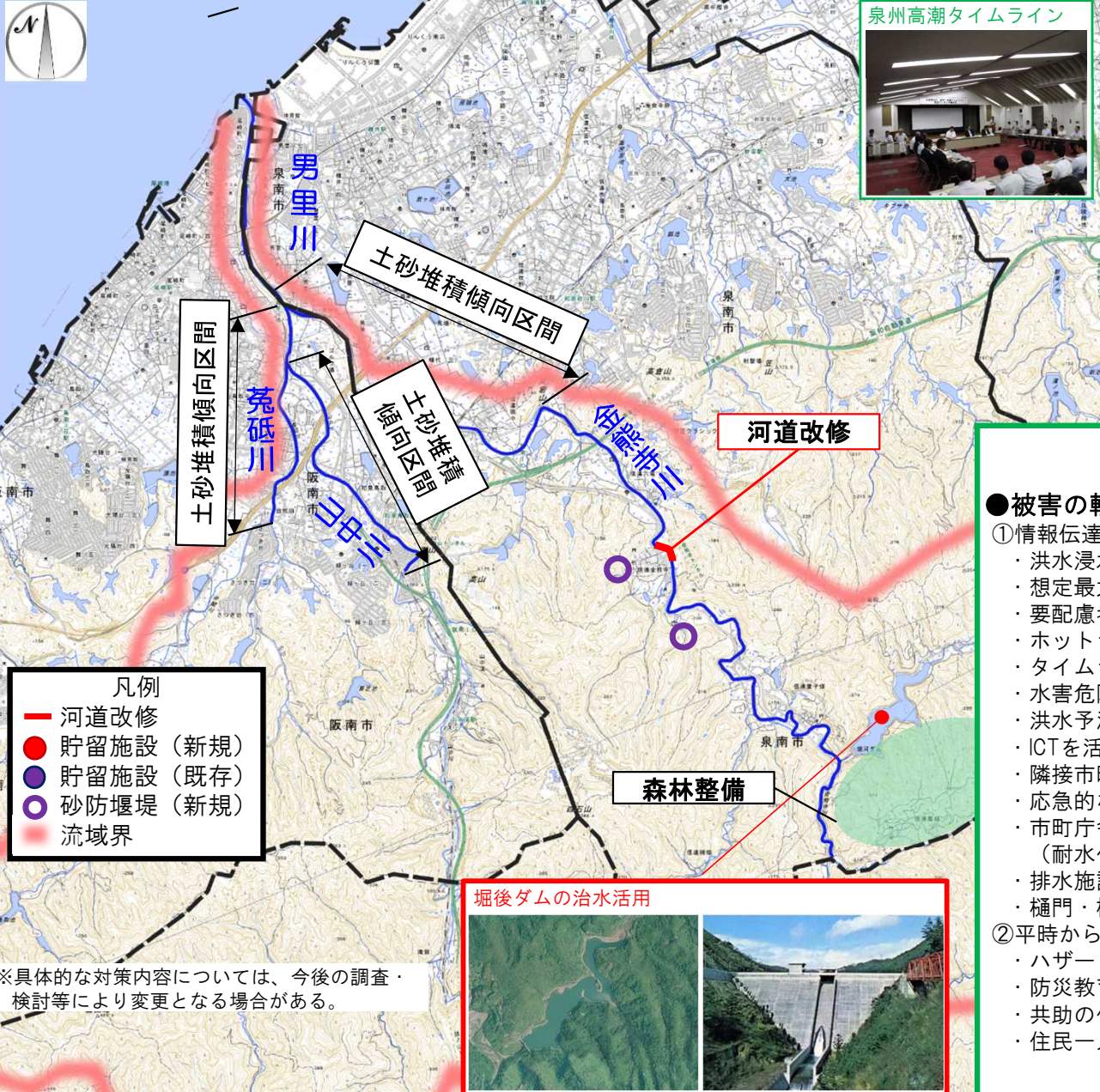


○金熊寺川では、時間雨量80ミリ程度の降雨による浸水を防げるよう河道改修を行う。



- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - ・河道拡幅、河道掘削【府】
 - ・ため池及び農業用施設等の治水活用【府・市・民間】
 - ・既存貯留施設の治水活用【府・市】
 - ・砂防施設の保全【府】
 - ・河道内堆積土砂の撤去【府】
 - ・下水道等排水施設の整備(要確認)
 - ・治山施設・森林の整備及び保全【府】

- 被害対象を減少させるための対策
 - ・土砂災害特別警戒区域内の既存住宅に対する補助制度
 - ・立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 - ① 情報伝達、避難計画等に関する事項
 - ・洪水浸水想定区域の指定拡大【府】
 - ・想定最大規模の雨水出水に係る浸水想定区域図等の作成と周知【府・市】
 - ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成及び避難訓練の実施【府・市】
 - ・ホットラインの運用（洪水・土砂・高潮）【府、市】
 - ・タイムラインの策定・運用(広域・市町域・地域)【府・市・民間】
 - ・水害危険性の周知促進【府】
 - ・洪水予測や水位情報の提供の強化、水位計、河川カメラの整備【府】
 - ・ICTを活用した洪水情報の提供【府、気象台】
 - ・隣接市町村における避難場所の設定（広域避難体制の構築）等【府・市】
 - ・応急的な退避場所の確保【市】
 - ・市町庁舎や災害拠点病院等の機能確保のための対策の充実（耐水化、非常用発電機等の整備）【市】
 - ・排水施設、排水資機材の運用方法の改善【府、市】
 - ・樋門・樋管等の施設の確実な運用体制の確保【府・市】
 - ② 平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項等
 - ・ハザードマップの改良、周知、活用【府、市】
 - ・防災教育の推進【府、市】
 - ・共助の仕組みの強化、地域防災力の向上のための人材育成【府・市】
 - ・住民一人一人の避難計画(マイタイムライン)・情報マップの作成促進【府、市】等

●男里川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府・市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

- 【短期】 洪水・雨水出水浸水想定区域の指定。
- 【中期】 金熊寺川の河道改修に着手。気候変動の影響を踏まえた流域治水の検討
- 【中長期】 気候変動の影響を踏まえた流域治水の検討。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			R4年度～	短期	中期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	金熊寺川の河道改修	大阪府	調査・検討		
	気候変動の影響を踏まえた流域治水の検討	大阪府	調査・検討		
	堀河ダムの治水活用	大阪府・泉南市	調査・検討		
	ため池の治水活用	大阪府・※流域市・民間	保全対象の状況により適宜事業化		
	砂防施設の保全	大阪府	定期点検による継続監視及び状況により適宜実施		
	河道内の堆積土砂撤去	大阪府			
	治山施設、森林の整備・保全（金熊寺川・菟砥川）	大阪府	R6年度より森林環境税を活用した、森林区域での流域治水対策を実施		
被害対象を減少させるための対策	土砂災害特別警戒区域内の既存住宅に対する補助制度	大阪府・※流域市			
	水害リスクの低い地域への居住誘導（立地適正化計画の策定等）	※流域市			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	①情報伝達、避難計画等に関する事項 ・洪水浸水想定区域の指定拡大 ・雨水出水浸水想定区域の指定 ・市町村、地域タイムラインの策定 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成 ・防災気象情報の改善 等	大阪府・※流域市・気象台	洪水浸水想定区域指定拡大完了（R5年度）		
	②平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項 ・ハザードマップの改良・周知・活用 ・マイタイムラインの策定 等	大阪府・※流域市	雨水出水浸水想定区域図作成・公表（R7年度）		

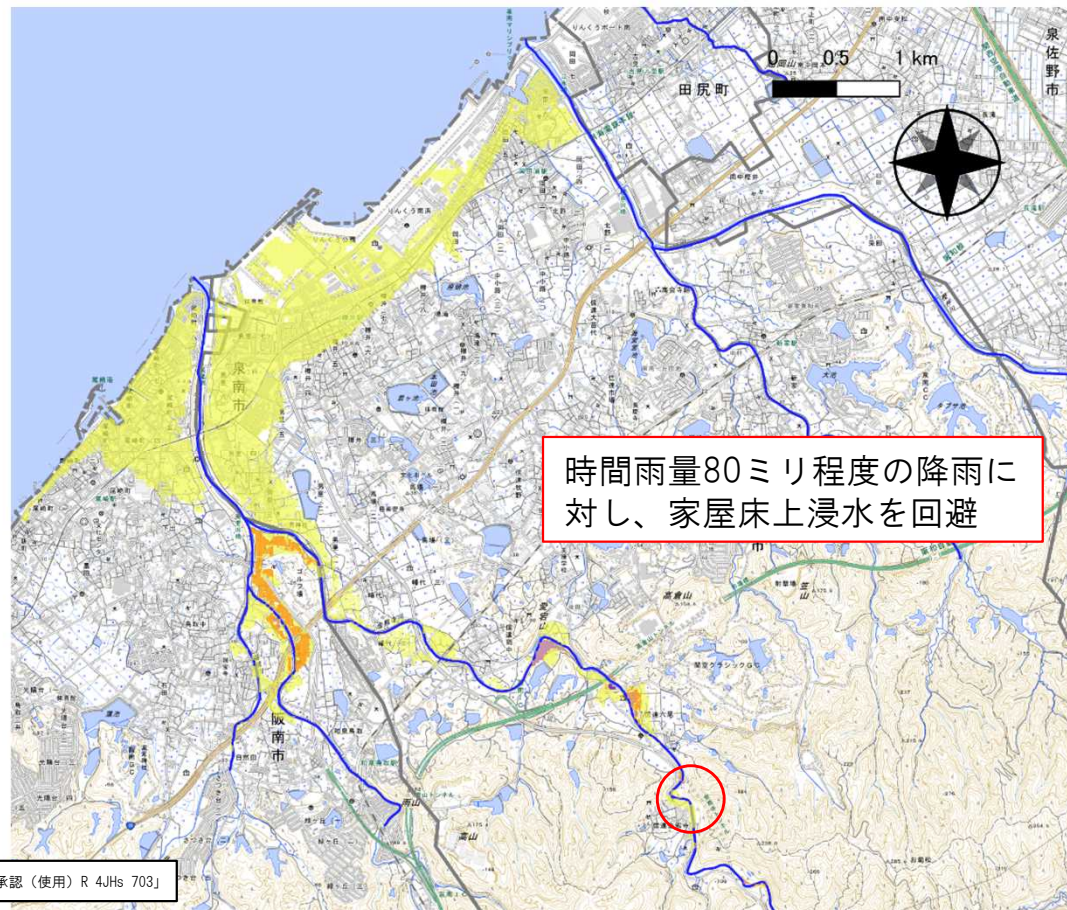
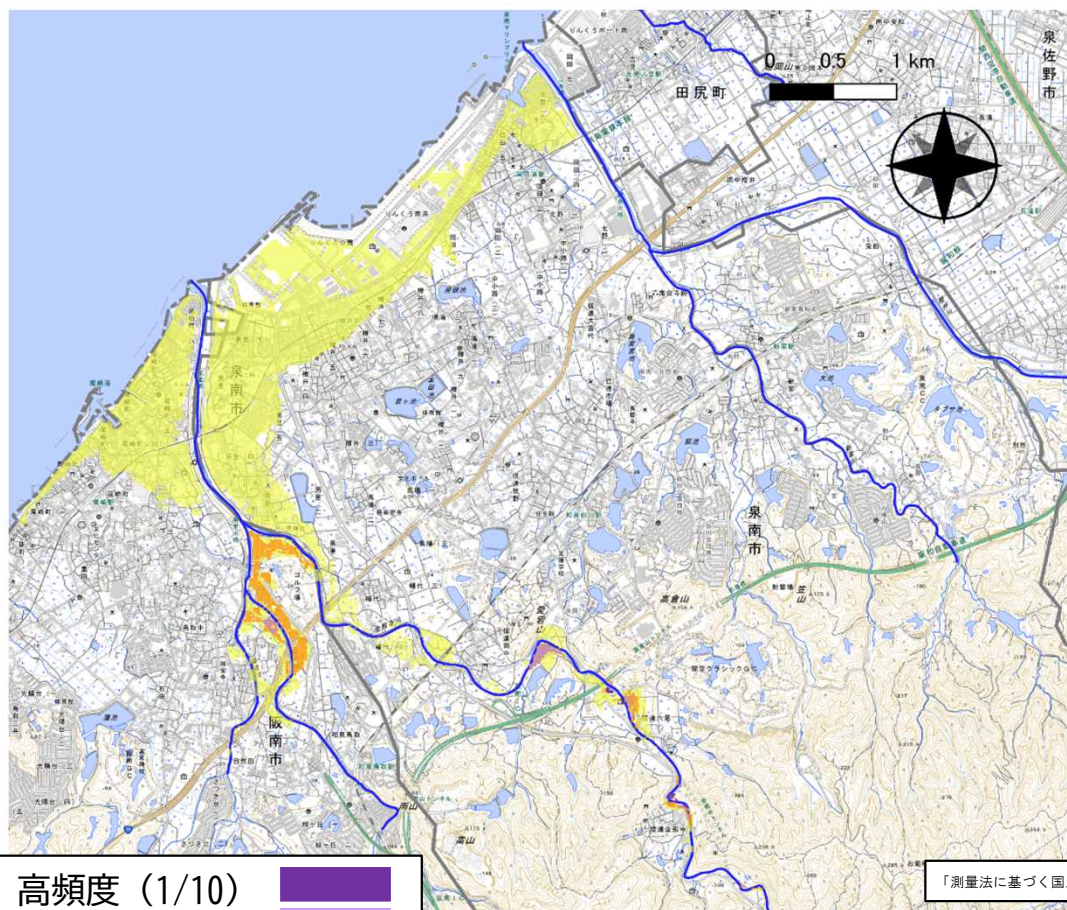
※流域市：泉南市、阪南市、泉佐野市

河川整備等による効果

家屋床上浸水が想定される区間において河道改修を行うことにより、時間雨量80ミリ程度（1/100）の降雨に対し、流域全体の家屋床上浸水を防ぐ

現 状

整備後



高頻度 (1/10)	■
中頻度 (1/30)	■
低頻度 (1/100)	■
想定最大規模	■

「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 4JHs 703」

※この図は、1/10、1/30、1/100の確率年及び想定最大規模の降雨により想定される、府管理河川の外水氾濫の浸水範囲である。

※「現状」の図は、氾濫シミュレーション時点（R1）の施設整備状況において想定される浸水範囲を示したものである。

※「整備後」の図は、河川整備計画の整備メニュー実施後において想定される浸水範囲を示したものである。なお想定最大規模については、施設整備の効果を考慮していない。

当面の治水目標に対応した河川の整備



整備率: 〇%
精査中
(令和5年度末時点)

農地・農業用施設の活用



0市
(令和5年度末時点)

流出抑制対策の実施



既存防災調節池等
0施設
(令和5年度末時点)

山地の保水機能向上
および
土砂流木災害対策



治山対策 1箇所
土石流対策 2施設
(令和5年度実施)

立地適正化計画に
おける防災指針の作成



1市
(令和5年度末時点)

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水
想定区域 2河川
雨水出水
浸水想定区域 0団体
(令和5年度末時点)

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 洪水 42施設
土砂 6施設
高潮 21施設
避難訓練 0施設
(令和5年9月末時点)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

男里川河道掘削工事(菟砥橋上流)



被害対象を減少させるための対策

阪南市の立地適正化計画策定の取組

熊取町では、平成30年8月に立地適正化計画を策定し、災害リスクの高い、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域及び想定最大規模降雨で浸水深が3m以上となる区域を居住誘導区域から除外している。また、防災指針を作成し、防災まちづくりの取組方針を定めている。

阪南市立地適正化計画の概要

- 1. 策定の目的**
熊取町では、今後さらに人口減少・高齢化が進む中、地域の活力を維持するとともに、健康・福祉・教育等の生活環境を確保し、幅広い年齢層の市民が安心して暮らすこと、公共交通機関の利便性を高めること、防災・防犯対策を充実させること、これら5つの目標を掲げてまちづくりを進めていくことと計画の目的としています。この5つの目標を達成し、立地適正化計画を策定することで、都市生活の利便性、居住環境の向上、交通安全の向上、防災・防犯対策の充実、健康・福祉・教育等の生活環境の向上を実現することを目指しています。
- 2. 人口の将来見通し**
熊取町において、世帯数(世帯主が65歳以上)の将来推計に当たって人口推計は、2040年までに人口減少が顕著な地域が減少します。
- 3. 主なターゲットとめざすべき社会**
令和、さらに人口減少の中、高齢化が進む中、健康・福祉・教育等の生活環境の向上、公共交通機関の利便性を高めること、防災・防犯対策を充実させること、これら5つの目標を掲げてまちづくりを進めていくことと計画の目的としています。この5つの目標を達成し、立地適正化計画を策定することで、都市生活の利便性、居住環境の向上、交通安全の向上、防災・防犯対策の充実、健康・福祉・教育等の生活環境の向上を実現することを目指しています。
- 4. 立地適正化に向けた基本的な方向性**
まちづくりに向けた取組は、健康を基盤とするため、立地適正化に関する基本的な方向性を示すこと、安全が確保できるコンパクトシティの構築、国土・地域に特長ある地域的な立地適正化、人口・都市構造の持続可能性(ネットワーク)を踏まえて、人口が減少しても支えあえるまちをめざします。
- 5. 公共交通を軸とした将来のまちの骨格**
公共交通を軸とし、地域ごとに特長を活かすコンパクトシティの形成と市街地の縮小を促して、歩いて暮らせるまちづくりを進めます。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

防災マップによる防災情報の提供

阪南市では、洪水、高潮、土砂災害、地震、津波の各ハザードに対して、どの地域が被害にあう可能性があるかを示す災害情報に加えて、指定避難所、指定緊急避難所の指定記載と警察、消防などの防災関連施設を掲載した「阪南市総合防災マップ」を作成し、防災情報の提供を行っております。

わが家の防災メモ

住所	家族構成	家族の年齢	家族の職業
氏名	性別	年齢	職業
氏名	性別	年齢	職業
氏名	性別	年齢	職業
氏名	性別	年齢	職業
氏名	性別	年齢	職業
氏名	性別	年齢	職業
氏名	性別	年齢	職業

知急・災害情報を緊急メールで配信します
 防災情報メールを配信しよう
 防災情報メール配信サービス
 防災情報メール配信サービス

阪南市総合防災マップ

English 英語 漢語(中国) 韓国(韓文) 中国語 英語 英語

令和4年3月作成